

プログラムの作り方

I T Cのプログラムには「会員のニーズに合っていること」「I T Cらしいものであること」この2点の要素が不可欠である。

会員のニーズとは？

I T Cに入った動機、人間関係のトラブルやコミュニケーションの失敗体験などから学びたいこと、そして「命ある限りいかに生きるかを学び続けなさい」セネカ（教育資料B20の冒頭に書かれている言葉）のように精神の成長、自分の持つ可能性の向上をめざすなどがあげられる。

このニーズをアンケートで引き出してくる、あるいはプログラム委員になりニーズに合う企画を自ら提案するなどの方法でニーズをプログラムに反映することが必要である。

I T Cらしさとは？

まず、I T Cの目的にかなっていることである。

I T Cの4つの目的

- 1・リーダーシップの養成
- 2・上手な話し方、聴き方を通じての伝達技術の訓練
- 3・効率的で効果的な会議の運営
- 4・自己の持つ可能性の向上

この目的にかなっていることに加えて、例会全体のプログラムが実用的な訓練であって教育と評価が含まれていること・・・これがI T Cのプログラムの特徴である。

どのようにしてプログラム企画案を作成すればよいか？

京都クラブでは、プログラム委員会のメンバーが各自企画案を持ち寄り、全員でそれを練りあげて一つのプログラムを完成させるという方法をとっている。今回はこの企画案作成の一助となるようTHE SCEL PROGRAMを紹介する。

THE SCEL PROGRAM とは？

「会員のニーズとI T Cが目指している訓練の目的」に焦点をあてて作成された、まさにI T Cらしい例会の見本例題集である。クラブの例会で利用できるように、あるいは外部へのマーケティングツールとしても使えるようにPowertalk Internationalのwebsiteに掲載されている。

SCEL とは？

Self -improvement （自己の持つ可能性を向上させる）

Communication （上手な話し方と聴き方によって良いコミュニケーターになる）

Evaluation （評価する力を身につける）

Leadership （リーダーシップを養成する）

SCEL の頭文字で表わされる上記 4 つの目的を効果的に達成するための手助け資料として
目的ごとに 4 回の、一回あたり 2 時間の例会見本、計 16 回分の例会プログラムが紹介されている。

例会見本のページには、各例会のテーマと目標のほか、例会の進行内容（オープニング、ビジネス
〜クロージングソートまで）とそれぞれの時間の割り振りが細かく記載されている。プログラムに
はパネルディスカッション、ワークショップなど変化に富んだ方法が用いられトピックも多種多様
なものが選定されている。

また 4 回の例会見本紹介に先だって、SCEL の目的ごとにその訓練がもたらす効果も具体的に説明さ
れているので、逆に「このような力を身につけたい」と思えばその分野のプログラムを企画すると
いう利用法もある。

例) Evaluation の訓練を受けた場合に獲得できるスキル

- ・とっさに適切な判断をする・臨機応変に対応する・客観性を持つ・分析的に聴く
- ・上手にほめる・建設的に勧告する・やる気を与える

初心者でもイメージがしやすく、そのままで利用でき、また応用もできる見本なので、企画案を
作成する際に教育資料 B 20 に加えての新しい参考資料として推奨したい。

THE SCEL PROGRAM の利用

プログラムの時間や内容に変更を加えたり、一つだけのプログラムを取り上げたりすることもでき
る。しかしながら、年間を通して、この **SCEL**、4 つの目的に添ったプログラムを万遍なく組み入
れてこそ ITC らしい訓練となるということを心に留めておく必要がある。

そのためには、企画した案が「ITC の訓練目的の、どの分野に該当するのか」を一度考えてみな
なければならない。一方で、「分野に合わせてプログラムを作成すること」もまた効用がある。プログ
ラム案に枠をはめることでプログラム内容を際立たせ、深みを持たせる。加えて企画者にとっても
アイデアのレパートリーを増やす良い体験となる。

例えば、「10 月は ITC 月だから ITC の歴史について学ぼう」「スピーカー 3 人に話してもらう」
と決めるとする。

ここで、SCEL に照らし合わせてみる。

もし、目的を「リーダーシップの養成」とするなら「ホワイト女史や ITC のこれまでのトップメ
ンバーの『リーダーとしての資質』についてリサーチして述べてもらう。」

目的が「自己啓発」なら、「ITC が出来上がった時や日本に導入された時のアメリカや日本の社会
的、時代的背景にせまる」

目的がコミュニケーションや評価なら、「トピックは何であってもスピーカーの技量を伸ばすワーク
ショップ」など様々なバリエーションが考えられる。

このように同じ素材（主題）を目的に沿うように料理する。こうしてアレンジしていけばバリエー
ションも広がりオリジナルな企画も生まれてくる。

最後に・・・

この教育を担当してみて「すべての I T C プログラムは『何かを学ぶ』ためにある」と再認識した。プログラムの成功は「どれだけ楽しめたか」だけではなく「楽しみながらもどれだけ学べたか」にあると実感した。

このことは取りも直さず、プログラム委員会は企画にあたり、一つ一つのプログラムが「どのように会員の学びに役立つのか、どのようなスキルを提供しようとしているのか」を常に念頭におき検分してみる必要があるということを意味する。そして、その内容をプログラムの開始前に、プログラムを受ける側にもしっかりと伝える必要がある。目的を自覚し、その姿勢でプログラムを受けるのとそうでないのでは効果に大きな差がでてくる。

このサイトには、この目的達成のためのおすすめアクティビティ（たとえば今日の話題のリーダーになる、委員会記録を作成するなどの活動）や参照本も書かれている。ぜひ一度サイトを閲覧してほしい。

アクセス方法・・・ POWER TALK INTERNATIONAL のHP より

Home》Member 's resource》Training and Publication》Education Feature》Club Program Planning The SCEL Program

京都クラブ 5 月例会教育

中西眞佐子

参考資料

I T C 教育資料 B20 C82

上記 Powertalk International HP